

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for Group Home Spring.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for the evaluation agency.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは周囲を自然豊かな環境に恵まれた閑静な住宅街に立地しています。ホームの前庭や玄関周りには季節を感じられる様な花々を絶やさないようにして、入居者さん、ご家族、近隣の方々に楽しんで頂ける様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム春桜は、地域医療に尽力している医療法人中山会が認知症高齢者介護を担うべく最初に開設したグループホームで、医療と介護の調和が取れた3ユニットの事業所として21年目を迎えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果, 項目, 取り組みの成果. Contains 10 rows of evaluation items (56-62) with checkboxes and numerical ratings.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスの際に理念である「大切な命を元気で楽しい命に」と基本方針を読み上げ、共有しています。また、それを元に日々のケアに活かせる様努めています。	サービスのあり方を示す運営理念と基本方針はカンファレンス時に読み上げ理念の浸透を図っている。ホーム長交代を機に事業所全体の目標を掲げ、ケアサービスの統一と実践する環境作りに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年は母体病院の夏祭り等のイベントや、地域の演芸大会に参加し、交流を図っていましたが、コロナ禍の為、現在は行っていません。	昨年と同様で今年もコロナ禍により、運営母体の夏祭りや地域の演芸大会は中止となり交流の場を失っているが、玄関前の花壇、畑の水遣り時や散歩時に地域住民と挨拶を交わすなど、日常の関わりは継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方々にお手紙ではありますが、現在の様子や取り組みを発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、お手紙で近況報告等のやり取りを行わせて頂いており、それらを参考にし、ホーム職員で運営推進会議を行い、サービスの向上に努めています。	現在は書面会議とし、事業所内部で開催している。委員会メンバーには事前に運営状況を文書で報告し、意見、要望と共に情報なども聞き取り議事録を作成している。コロナ禍での活動状況を報告し乍ら、運営体制への理解に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡事項等があれば、札幌市の担当者に電話連絡を行う等して、協力関係を築ける様努めています。	現在はコロナ禍で事故報告書等の書類提出は郵送で行っており、コロナ対策や生活保護関係等の相談事項においても殆どメールや電話での対応となっているが、担当課との課題解決に向けての協力関係は築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日、虐待・身体拘束・不適切行為等対応マニュアルの読み合わせを行い、理解を深める様努めています。玄関、非常口、階段口のドアは、夜間のみ様々なリスクや防犯上の観点から施錠しています。	身体拘束適正化に向けた指針の下、委員会や研修会を定期的に開催している。研修会では、職員一人ひとりが学んだ内容について感想を書きだし、自身のケアを振り返り今後の対応に活かしている。センサー使用時は家族の同意を得て、介護計画に反映している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修やリモートでの研修を活用し、職員の認識を高め、虐待の無いホーム作りに努めています。また、入居者さんの日々の言動の変化に気をつけたり、入浴時等に身体チェックを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援	日常生活支援事業や成年後見制度に関しては、事業所内に資料があり、それを活用した自主研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には重要事項の説明に十分な時間を取り、利用者、家族の理解や納得を得られる様に努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは来訪時やお電話等で直接お話を伺い、それらをノート等に記載し、申し送りやカンファレンスの場で共有し、運営に反映出来る様努めています。	感染症防止対策にて、家族には玄関でのガラス越しの面会やリモート面会を促し協力頂いている。ホーム長は毎月手紙で事業所運営報告を行い、家族の安心に繋げている。季節に応じ写真掲載の便りを発行したり、訪問時に個別で写真を提供するなど利用者の暮らしぶりを伝え、来訪時や電話時には要望の汲み取りに努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は個人面談やカンファレンスで意見を聞いたり、それ以外でも提案があれば、意見を反映出来るよう努めています。	日常の業務やカンファレンス時で意見や提案を聴取し、個人面談でも意見の表出に努め、運営に反映させている。ホーム長交代を機に全職員にアンケートを取り、学びたい事など情報収集に努め、質の確保や働く意欲の向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ステップアップシステムによる昇給体制を取り、それに基づいての自己評価や面談を行う事で、やりがいや向上心を持って働ける様に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修やリモートでの研修に参加出来るよう環境を整備しています。職員は働きながら介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を目指しています。また、法人による資格取得の助成制度もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は厚別区のグループホーム管理者連絡会にて情報交換を行っています。コロナ禍で行っていませんが、職員も厚別区のグループホームの合同研修会に参加し、サービスの向上に繋がる様努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	例年であれば、入居前には必ず見学をして頂き、本人や家族から出来る限り情報や意向を得る様にしています。入居後は不安な事等、都度話を聞いて対応しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居についての説明の段階でご本人や家族の話を十分に聞き、センター方式等のシートに記入して頂く事で、気持ちを理解し、不安や要望に対応し、家族との信頼関係を築ける様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話をよく伺い、必要としている支援や要望している事を把握し、適切なサービスの提供を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に於いて、個々の能力を活かした家事等のお手伝いをして頂き、その中で会話をしたり、時には教えてもらいながら、お互いに支えあっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時には「暮らしのシート」を開示し、日頃の様子を把握して頂いています。また、お便りや電話でも様子を報告したり、行事等の写真をお渡しする等して情報の共有を図り、共に本人を支えあう関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為外部からの訪問や自宅への外出、買い物等のご遠慮して頂いていますが、電話の取り次ぎ等で対応しています。	現在、外出、外泊は自粛しているが、家族の協力の下、かかりつけ医の受診に出かけている。電話や手紙、ガラス越しの面会、リモート面会などで、親睦を深め関係を断ち切らない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりを大切に席の配置を工夫したり、お茶やアクティビティの時間には、職員も加わり、コミュニケーションが取れる様に、支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入院先への問い合わせ等を行い、状況を把握する様に努めています。必要に応じて、相談、支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、一人ひとりの思いを受け止め、十分に話を聞き対応しています。表情や言動からも思いを把握する様努め、カンファレンスで報告、共有し検討しています。	意思疎通が困難な利用者の方が多く、職員は関わりを多く持つ事を心がけ、表情や仕草を見て気持ちの理解に努めている。言語化が可能な場合は、会話を大切に想いを受け止め、出来るだけ希望に添える様に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、家族から情報を得たり、本人から話を聞いたりしています。また、毎日の暮らしの中からも把握する様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「暮らしのシート」や「個人記録」に毎日記録し共有しています。変化が見られた際は、都度申し送り等でも情報を共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度見直しを行い、変化に応じて次回プランの変更をしています。家族にも情報を提供し、意見交換や要望を把握し、介護計画に繋がっています。月2回のモニタリングも行っています。	月2回のモニタリングで知り得た情報を基に、担当職員が暫定プランを作成し、カンファレンスにて職員の気付きや情報も加味し、介護計画は3ヵ月毎に見直されている。読書や編み物など趣味活動をプランに加え、利用者の望む暮らしに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録用紙に生活の様子、バイタルチェック、食事、水分量、排泄、体調の変化等を記録し、情報を共有しています。また、ケアプランを毎日チェックし、活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康管理や体調の変化等は医療連携体制を活用して行っています。必要に応じて歯科受診や理美容等その他のニーズにも応えられる様取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外部からの支援や交流は控えています。今後はボランティアの受け入れ等入居者の生活を豊かに出来る様支援していける様努めていきます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人、家族の希望するかかりつけ医を利用して頂いています。家族が受診に付き添う際には、本人の状況を説明し、円滑に適切な医療が受けられる様配慮しています。	8割の利用者は、併設されている運営母体の協力医療機関を主治医としている。入居以前のかかりつけ医への受診は家族対応を基本とし、協力医からの診療状況報告書にて情報が共有され、助言、指導が得られている。看護師職員が常駐し、利用者の健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や見守りを行う中で、体調の変化や状況を観察し、職員間で共有、把握しています。不測の事態の際は、常駐の看護師に連絡し、受診等の対応を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、支援に関する情報を医療機関に提出しています。本人、家族の支援も行い、病院からの問い合わせには、職員もスムーズに答えられる様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所相談時に医療連携体制の説明と重度化した際に事業所が出来る事、支援の状態を説明し、理解を得ています。終末期には、本人、家族の意見を尊重した支援が出来る様取り組んでいます。	契約時に医療連携体制に関する指針と共に、看取りを行っていないことを説明し同意を得ている。現状では運営母体である併設の医療機関への移行を希望するケースが殆どであるが、状況変化に応じ看取りギリギリまでの介護を行うなど、利用者、家族の思いに沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し急変時や事故発生時にも速やかに対応出来る様に備えています。AEDも設置しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て、年2回の避難訓練を行っています。また、防災センターでの煙体験等に職員を参加させています。運営推進会議でも地域の消防団との協力体制を築いています。	6月に防火設備会社の支援の下、夜間想定の方災避難訓練を実施しており、次回は11月、昼想定の方災避難訓練と水害垂直移動訓練を予定している。自然災害及び感染症対策マニュアルを作成し、AEDの設置、備蓄品確保など防災意識を高めている。	新たに作成された、非常災害マニュアル・感染症対策マニュアルを基本とし、3年後に義務付けられるBCP(業務継続計画)の作成の取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのその日の表情や状態に応じた対応や言葉掛けをしています。トイレや入浴等は特に、自尊心に配慮して対応しています。	入浴時や排泄時は、羞恥心に配慮するなど、人格を尊重した支援に努め、言葉遣いや対応が不適切な場合は、職員間で注意を促している。利用者に関する伝達時にはアルファベットで表し、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の表情、仕草、言葉等から本人の思いを汲み取る様に心掛け、それに応じて自己決定が出来る様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなな日課は設定していますが、一人ひとりのその日の体調や希望に沿った対応をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にし、本人の好みを取り入れて更衣や整容が行える様に声掛けや見守り等の支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事の際は、一人ひとりの好みのメニューを入れる様にしています。入居者と職員が、一緒に調理や盛り付け等を能力に応じて行える様に支援しています。	1汁3菜を基本にした献立と食材は外部委託しているが、更に食材を購入し、利用者の嗜好や希望に添える様、調理専門職員は時に献立をアレンジし工夫している。誕生会や季節行事では好物の生寿司や仕出し弁当を出前するなど、利用者のリクエストに応え、喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて食事や水分の量や形態に配慮しています。嚥下の悪い方にはトロミを使用したり、飲み物も好みの物を提供する等して水分量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に合わせた方法で口腔ケアを行っています。変化があれば、歯科受診に繋がっています。必要な方には、定期的な歯科受診も行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、定時誘導やパッドの確認等を行っています。状態に応じて、リハビリパンツやパッド等を使い分け、自立に向けた支援をしています。	個々の排泄機能やパターンを把握し、時間やサインを察し誘導、声掛けを行い、トイレ排泄を基本とした支援に取り組んでいる。布下着、パット、リハビリパン、ポータブルトイレ使用、ベット上のオムツ交換など、身体状況に合わせ、快適さを求め支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食物や十分な水分補給を心掛け、個々の体力に合わせて運動や散歩等を行い、便秘予防に取り組んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しく入浴できる様、一人ひとりの好みに応じて湯の温度、時間、声掛けのタイミングに配慮しています。気分の乗らない方には無理強ひせず、翌日に再度声掛けを行う等しています。	入浴は湯船に浸かる事を基本とし、週2回を目安に支援しているが、利用者の体調や状況に応じて、シャワー浴や清拭など支援方法を工夫し、衛生保持に努めている。職員は1対1での会話の時間を大切にし絆を深めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、昼寝を含めて快適に眠れる様に、室内の温度や湿度、寝具の調節を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報をファイルして把握し、症状の変化を観察しています。服薬時は、必ず2名の職員で声出し確認を行い、服薬時は名前を本人と確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態、能力に合わせて、家事のお手伝いを行って頂いたり、趣味、趣向に合わせた事を行い、楽しく、張り合いのある生活が出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支	コロナ禍の為外出はご遠慮頂いていますが、天候や体調を考慮し、前庭への散歩、外気浴に出かけられる様に支援しています。今後は状況を見て、以前のように本人の希望に沿った外出等の支援が出来る様に努めます。	事業所全体では外出を自粛しているため、気候の良い時期は玄関前の花壇や畑の水遣り、周辺の散歩など、気分転換に努めている。個別対応であるが、家族の協力でかかりつけ医に出かける事が唯一外出支援となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、外出しての買い物等はご遠慮して頂いていますが能力に応じてお金を所持し、希望があれば、買い物等自由に行えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される際はホームの電話を取り次いだり、家族への手紙の投函等の支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	最近の写真や季節の飾りつけ、入居者と一緒で作った作品の展示、テーブルに花を飾る等し、居心地よく過ごせる環境作りに努めています。不安感や混乱を招かない様、照明や生活音、室温等細目に調節しています。	共有空間は開放感があり、ゆったりとしている。パブリックスペースを設けて、利用者がそれぞれに寛げる空間となっている。季節の飾りつけや利用者の作品、鉢植えや生花も彩りを添えて、華やかさと明るさが備わり、居心地の良い空間である。マガジンラックには雑誌も用意され、利用者の感性の刺激や活動意欲にも繋がる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間以外にもワークスペースに椅子を配置したり、植木鉢等を飾り入居者が一人でも、入居者同士でも自由にくつろげる様な居場所作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や生活用品、趣味の物を持ち込んで頂き、馴染みの環境で落ち着いて過ごせる様に工夫しています。	居室前には表札とガラスケースが設置され、それぞれ好きな飾りつけを施している。居室内は生活に必要な調度品に加え、趣味の楽器、野球ポスター、色紙や写真など、個性を活かした部屋作りが成され、自分らしい空間を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーの造りで、歩行が不安定な方にも配慮し、廊下、トイレ、浴室には手すりが設置してあります。車イス用の洗面台も2箇所設け、自立の支援に努めています。		